

上示現種種化身、濟度衆生」と説明する。

「垂迹」には、別に述べるように、「功績・名声を後世に伝える」の意もある。ここでは後者の意で解釈を試みた。↓補説①

○淡 ……あわい。うすい。名利の心がうすい。欲望がない。名誉利益などに執着しない。

淡爾（たんじ淡如）、淡然（たんたん淡淡）。さっぱりして欲のないさま

岩波古典文学大系本では「話」となっているが、刊本をはじめ多くの写本はここを「淡」とする。

↓補説②

98 ○莊叟…莊周をいう。叟は長老の称。

莊周：戦国、楚の蒙の人。一説に字は子休。かつて蒙の漆園吏となる。梁の恵王、齊の宣王と時期を同じくし、楚の威王および周に聘せられるも皆辞して就かず。学、窺はざる所無く、書、十餘萬言を著し、莊子と号す。大率皆萬言、旨は老子にもとづき、ともに道家の祖と称せらる。↓補説③

○處身…『漢語大詞典』には、「立身処世、对待自身」と説明する。

99 ○性 ……万物それぞれが有する本質。人間の本体。動物や植物あるいは物の本質特性。

○乖 ……そむく、さからう

○常道…①不変の法則②常に守るべき正しい道。

『漢語大詞典』には、「一定的法則、規律、常有的現象」と説明する。『大漢和辞典』には、「不変不易の道、一定不動の正しい道、人の必ず由るべき真の道」と説明する。

『老子』「一」に「道可道、非常道」の一文が見える。また、『荀子』「天論」に「天道常道矣、地有